

相原香保留さんが さいたま輝き荻野吟子賞を受賞

日本初の公認女性医師となった荻野吟子の不屈の精神を今に伝え、男女共同参画の推進に功績があった個人や団体などをたたえる「第5回さいたま輝き荻野吟子賞」。このたび受賞者が発表され、市内在住の相原香保留さん（向町）が受賞し、2月12日にその報告のため市役所を訪問しました。

相原さんは、少年警察ボランティアとして30年間、少年の非行防止や健全育成に尽力し、昨年少年補導功労者栄誉金賞を受賞。また保護司として「事業主会」の立ち上げや、川越少年刑務所篤志面接員、自治会女性部連絡会会長など多方面で活躍されていることから、今回の受賞となりました。



力作がずらりと並んだ美術展

2月11日から14日まで、グリーンアリーナサブアリーナで第12回公募行田市美術展が開催されました。

絵画、工芸、書、写真など全328点の作品が並んだ会場には、4日間でのべ1,768人の来場者が足を運びました。出品者の力作を前に、多くの人々が「すごいね」などと感心し目を奪われていました。

長野コミュニティ広場でこけら落とし

市が整備を進めていた長野コミュニティ広場がこのほど完成し、こけら落としとして1月30日に橋場自治会主催のグラウンド・ゴルフ大会が行われました。

お祝いに駆けつけた工藤市長による始球式で幕を開けたこの大会には、48人の地域住民が参加。初めてクラブを握る人も少なくなく、ベテランのお年寄りが若い人に手ほどきをする光景があちこちで見られました。参加者たちは思うように転がらないボールに悪戦苦闘しながらも、楽しくプレーしていました。



刻書で思い出のオルゴール作り

1月22日、南小学校6年生の児童が図工の授業で刻書の技法を用いたオルゴール作りを行い、学区内（佐間）に在住し刻書の制作に励む藤田久仁さんが指導に当たりました。

藤田さんから制作に使う木の性質などを聞き、自分の好きな文字やデザインを彫り始めたものの、なかなか思うように作業が進まず苦心する児童たち。「焦らずゆっくり」と彫刻刀の使い方のアドバイスを受けながら、思い出のオルゴールを作りました。